

Angel's Voice

パイプオルガン四方山話

主教 アンデレ 中村 豊

2012年5月16日、ロンドン地下鉄 Bethnal Green 駅すぐ側の小さな公園のベンチに腰掛けて、私はジョナサン・グレゴリー氏に、「300万円値引きは可能でしょうか」と言ってみ積書を見てもらいました。

値引き交渉

駅から歩いて20分のオルガン工房マンダー社・社長が直々に私たちを迎えるために会社から車を飛ばしている間の、僅か5分くらいの出来事です。

教区では、オルガン製作をマンダー社にほぼ決定しましたが、大聖堂に相応しいパイプオルガン設置のためには、ストップをもう1つ増やす必要に迫られ、パイプ数も992本から1,022本に増えました。これに従い、オルガン本体の費用は300万円増の4,000万円になりましたが、この金額捻出が困難な状況であったのです。

ジョナサン・グレゴリー氏は、1994年から2010年まで、レスター教区大聖堂音楽監督を務められた有名なオルガン奏者で、今年6月、神戸聖ミカエル大聖堂で行われた神戸教区宣教140周年記念コンサートにお招きしましたが、その演奏は多くの聴衆を魅了しました。

グレゴリー氏は見積書の項目を一つひとつ確認したのですが、5万ポンドを計上している「Contingency・偶発勘定」に注目しました。じっと考え、この項目にこれだけの額が計上されているというのは、交渉の余地が充分あるとの意見でした。間もなく、社長の車が到着し、私たちはマンダー社に向かいました。

マンダー社は、ジョナサン氏の息子が学んでおりますケンブリッジ大学セント・ジョンカレッジにオルガンを納入しており、まずはその話題に花を咲かせ、しばらくして、本題に入りました。ジョナサン氏も加勢して下さいましたが、社長は見積書データをじっと眺めながら思案の末、来日するビルダーの滞在費を教区が負担することを条件に、当方の要求をのみ、300万円値引きに成功しました。

基金講座開設

6年前の2010年の大聖堂耐震改修工事に際しては、パイプオルガン設置を想定して床を補強し、音響効果を高めるため、プラスターボードを壁に取付け、床をフローリングするなどの工夫を施し、窓も二重にしました。とはいえ、この時点では、パイプオルガンは夢のまた夢の話でした。ところが1ポンド130円は近い将来、円安に推移することが予測されてきたのです。

2012年2月、パイプオルガン購入に賛同する数名の人たちと、教区内3教会から計3,700万円の献金が寄せられました。しかしこのお金を手元に置いていても、円安になってしまえば、元の木阿弥です。当時、全聖公会中央協議会事務局秘書室長のグレゴリー・与子美さん（グレゴリー氏の妻）を通して、ティム・トリンブル財務部長が、「神戸教区パイプオルガン基金口座」を開設してくれ、オルガンビルダー支払い分約3,700万円分のポンドがこの口座に振り込まれたのです。

石の上にも三年

待ちに待ったパイプオルガン到着の日が2013年9月11日と決まりましたが、搬入の為に賃金を払う余裕は皆無です。しかしアピールの結果、約30名の自称若者が集まったのです。午前9時から聖堂への搬入作業は晴天にも恵まれ、マンダー社のビルダーの指示に従い、スムーズに作業は進み、チームワークの良さもあって当初予定していた2時間よりかなり早く、1時間半で作業は終了しました。

一方、イギリスから突然、湿気が多い神戸に嫁いできたパイプオルガンは、日本の気候風土に慣れるのに大変苦労したようです。パイプオルガンは摂氏22度を基準に調整されましたが、湿気や気温の変化の激しい梅雨や暑い夏になっても神戸教区は電気代節約のため、エアコンのスイッチを入れてくれないのです。最初の半年は、昼夜を問わず四六時中、メキメキ、ビシビシと音を発しながら、身体を順応させようともがいておりました。しかし、石の上にも3年、今まで以上に、すばらしい音色を奏でるオルガンに成長したことは間違いありません。

辻 彩乃氏に聴く パート2

「キリスト教は歌う宗教である」と言われ、礼拝は音楽にあふれています。奏楽者が最も大切にしたい「聖歌伴奏」について、大阪・川口基督教会オルガニストで京都ウイリアムス神学館で教鞭をとっておられる辻氏にお話を聴きました。

Q.礼拝は一回限りの生きた祈りです。奏楽者は何を大事にすべきですか？

A.奏楽者に必要なことは「決断力」ではないかと日頃から感じています。

決して自己本位の奏楽にならないよう、会衆全体の空気を感じながら、歌声をよく聞くこと。たとえ入念に準備したものでも、その場にふさわしくないものは欲を捨て、ぱっさりやめる勇氣が必要です。

Q.本当にそうですね。礼拝では一瞬の判断を迫られます。判断を誤り失敗することもあるのですが。

A.礼拝の後、私は記録ノートをつけ礼拝内容と聖歌が合っていたか、会衆が十分に歌えたか、奏楽曲が相応しいものだったかを振り返ります。時には礼拝を録音します。落ち込むことの方が多いのですが……。しかし冷静で客観的な振り返りが次へのステップになるのは確かです。

Q.良い奏楽者になるには？

A.教会ごとに会衆の人数や構成、礼拝堂の規模、楽器の種類も異なり、理想と現実のはざままで苦悩している方は少なくないと思います。しかし絶えず模索する勇氣を持ち、あきらめずにできる可能性を信じること、と思います。

Q.心の思い、信仰を歌に乗せるため、礼拝や楽曲をより深く理解し、音楽的鍛錬を積みながら、「奏楽者になっていく」ように思います。奏楽は重要な奉仕の一つですから、その重責を担えるよう、祈りと謙遜な心で主のみ心を

探りつつ、努力できればと思います。貴重なお話をありがとうございました。最後に神戸教区の皆さんへメッセージをお願いいたします。

A.私自身まだまだ未熟者で、失敗や反省を繰り返しつつ、神さまの導きのままに奏楽者の道をひたすら歩んでいます。今回、神戸教区の奏楽者の皆さまとこのように紙面を通して交流させて頂くことができ、とても感謝しております。ご一緒に歩いて参りましょう。どうぞ今後ともよろしく願いいたします。

(質問者：原田 里香子)

辻 彩乃 (つじ・あやの)

大阪教育大学特設音楽課程ピアノ科卒業。同大学院修了。相愛大学音学部オルガン専攻卒業。同専攻科修了。日本オルガニスト協会会員。日本オルガン研究会会員。キリスト教礼拝音楽学会会員。日本賛美歌学会会員。ウイリアムス神学館教員(教会音楽)。大阪教区 礼拝・音楽委員会委員。京都教区 礼拝部協力委員。川口基督教会オルガニスト。



辻 彩乃氏

川口基督教会のパイプオルガンの前で

「主よ、み心なさせたまえ」
日本聖公会神戸教区オルガニスト
ミリアム 伊藤 純子

「キリスト教は他力本願なんですか?!」

20代の頃、私は信頼できる方を見つけては食い下がって疑問を投げつけていました。幼児洗礼で小学校から大学までミッションスクールで、すすくと当たり前のようにキリスト教の教えを浴びてきた人によくありがちな、ある時突然湧起る疑問です。

この疑問は結果的に、更にキリスト教に興味を持つきっかけとなりました。たくさんの言葉が私を助けてくれました。「人間は神から自由意志を与えられているのだから、最大限自由意志を駆使する義務がある」→「思い悩んだり、より良く努力しようという思いに至るまで、全てが神からのギフト」との言葉や、「人知を尽くして天命を待つ」といった言葉です。

そして、「主よ、み心なさせたまえ」とでも思わなければ、とても切り抜けられず乗り越えられないと思うような、怖くて逃げ出したくなる体験の数々が、私を変えてくれました。何事に対しても、特に大切に思う事柄に対して、向上心を持って出来る限りの努力を注ぐことは、人間にとって当然のことですが、自分の思い通りに事を進めることが、本当に自分の思い描く目的を果たすことになるのか、むしろ拘りを手放して広い心を持つことによって、それまで見えなかった視界が開けて、一番欲していた新しい発見に気付かされることは、よくあると思います。

改めて振り返ってみますと、今までの歩みは、自分では全く予測のつかないものでした。立教女学院小学校に入学した時、チャペルの通路を歩きながら「つくしのように」を全校生徒に歌ってもらった時は、3年後に聖歌隊に合格して赤と白のガウンを着て同じ通路を「イエスキミイエスキミ」と歌いながら歩くことになるとは、想像もしませんでした。それから9年間の聖歌隊生活を終える寂しさが、立教大学オーガニストギルドでの奏楽の喜びに繋がることになろうとは、思いもしませんでした。

立教大学でのオルガンや先生との出逢いが、

東京芸術大学でオルガンを専門的に勉強することになるとは、全く予期せぬ展開でした。立教大学を卒業するにあたり母教会に戻ることを勧められて、居心地の良いチャペルから離れる寂しさが、聖マーガレット教会での楽しい教会生活に繋がるとは、考えもしませんでした。立教大学の卒業礼拝で、チャペルで大好きな校歌を伴奏して涙が止まらなかったとき、まさか数年後にオルガニストとして立教大学に戻って来られるなどとは、予測もつかないことでした。

また、ボランティアやコンサートで高校時代から通っていた聖路加病院の憧れのチャペルに、教籍を置いてオルガニストとして通うことになるなど、想定外のことでした。

立教大学での長い歩みを止めて、生木を剥ぐ思いで神戸に移り、新しい魅力的なオルガンを任されることになるなど、夢の中の出来事のようなでした。神戸に来てからの神戸国際大学での夢中な日々の中で、勤務日の減少と同時に、松蔭の場をも与えられることになるなど、夢のような話でした。

そして神戸に来て9年目の昨年6月に突然、神戸聖ミカエル教会で奏楽の機会を与えられ、怖さと不安に飲み込まれそうになりながら、「主よ、み心なさせたまえ」と祈るほか何もできない自分が居ました。この10月からの神戸教区オルガニストとしての大役を前にして、たくさんの無限な可能性と未知の世界を感じる中で、今改めてこの心境でおります。

今までの歩みを振り返ったとき、その場その場で与えられた人の力と、その方々の言葉に、どれだけ支えられたか、改めて痛感し、深い感謝の想いに包まれます。お一人お一人の顔が、鮮明に目の前に浮かびます。その方々への感謝の気持ちの表現として、これからも、弱くて情けない私なりに精一杯、粛々と誠実に歩んで参りたいと、気持ちを新たにしております。

神が示してくださる数々の恵みを見落とさないよう、アンテナを張って常に耳を傾けて、目の前のひとつひとつの事象と、一つひとつの音楽と丁寧に向き合っていきたいと思えます。必死なときほどしがみつかずに手放す

ことによって、聖霊の導きが与えられることを信じて。「主よ、み心なさせたまえ。」



伊藤 純子(いとう・じゅんこ)

立教大学文学部英米文学科卒業。東京藝術大学音楽学部器楽科オルガン専攻卒業。フェリス女学院大学音楽学部ディプロマコース修了。ボストンのニューイングランド音楽院に短期留学。立教大学において13年間オルガニストを務めたのち、2006年より八代学院神戸国際大学オルガニスト。2011年より神戸松蔭女子学院大学オルガン奏楽指導者。2012年より神戸松蔭女子学院大学非常勤講師。1991年より聖路加国際大学聖ルカ礼拝堂オルガニスト。2016年度より、神戸聖ミカエル教会礼拝音楽責任者。10月より神戸教区聖ミカエル大聖堂オルガニスト。立教大学教会音楽研究所所員。日本オルガニスト協会・日本オルガン研究会会員。

<レッスン報告>

★教区レッスン

4月(6人)、5月(7人)、6月(5人)
7月(8人)、8月(7人)、9月(7人)
9月25日(日)15:00～第2回発表会
教区レッスン生7人が演奏を披露。
神戸伝道区内から約35の方が参集。

★松蔭中・高生オルガンレッスン

5月(4人)、6月(3人)、7月(2人)、
9月(2人)
指導:坂倉氏(松蔭中高オルガニスト)

★聖ミカエル教会信徒のためのレッスン

5月から月1回レッスン開始
指導:伊藤純子氏

<礼拝・行事報告>

★宣教140周年記念

「J. グレゴリー氏によるオルガン研修会とコンサート」

6月4日(土)10:00～13:00 オルガン研修会
～礼拝奏楽、イギリス人作曲家作品を学ぶ～

課題聖歌2曲と奏楽曲のオルガン研修

実技受講:6人(神戸聖ミカエル、神戸聖ペテロ教会、明石聖マリア・マグダレン教会信徒)

聴講:13人(神戸、広島、岡山、山陰伝道区内、また大阪教区から信徒が参加)



指導を受ける受講生たち

6月4日(土)17:00～18:30 コンサート

J. S. バッハを初めイギリス人作曲家のヘンデル、エルガー、ベネット、ウォルトンらの作品が演奏された。またJ. グレゴリー氏作曲のエリザベス女王・生誕90年を祝う曲も披露。大阪、京都教から駆けつけた方など180人を超える大盛況だった。

★宣教140周年記念「MAKI&LILYによる

歌とピアノ・こどものための記念コンサート」

6月14日(火)こども礼拝(奏楽:伊藤純子氏)の後、神戸市内の聖公会関連のこども園、幼稚園園児370人と引率の教職員約40人が参加。坂本真紀氏の伴奏と喜多ゆり氏の歌で、アニメソング、童謡、こどものゴスペル曲を聞いた。

★唱詠夕の礼拝

6月25日(土)17:00～18:00

司式:中原康貴司祭 説教:瀬山公一司祭
聖歌隊指揮・指導:喜多ゆり氏
大聖堂聖歌隊、奏楽:原田里香子

★宣教140周年記念礼拝

9月22日(祝・木)10:30～13:00

司式・説教：中村 豊教区主教

奏楽：井原 由紀氏(招聘オルガニスト)

奉唱：聖ミカエル大聖堂聖歌隊 他

ミニコンサート：マリバ・内海 桂子、中西 京子
歌とキーボード・MAKI&LILY

教区内外から約500人を超える方々が参列



礼拝の様子、福音書朗読



奉唱：聖ミカエル国際学校児童



奉唱：神戸松蔭中・高等学校合唱部

礼拝後半でミニコンサートを開催



マリバ：内海 佳子氏と共演の中西 京子



歌とキーボード：MAKI&LILY
坂本 真紀氏&喜多 ゆり氏

<今後の予定>

★教区オルガンレッスン再スタート
～受講生 随時募集中～

対象：神戸教区内信徒の奏楽者、または将来奏楽を行う方。今までレッスンを受講していなかった奏楽者、また現在奏楽をされていない方で、ご興味をお持ちの方も是非どうぞ。

講師：伊藤 純子(教区オルガニスト)

課題曲：日本聖公会聖歌(自由選択)

日時：毎月1回 不定期日曜日 13:30～
(事前連絡します)

次回レッスン：11月20日(日)13:30～15:30

お問い合わせ：神戸教区事務所

078(351)5469

m.daito@nskk-kobe.org

★宣教140周年記念

オルガン奉獻3周年記念コンサート
{天使からの贈り物}

11月19日(土)開演15:00～ 入場無料

先着250名様

演奏:松原 晴美氏(桃山学院大学オルガニスト)

演奏曲目

J.S. バッハ/前奏曲とフーガ 変ホ長調

「聖アン」BWV552

J. ラングレー/神への感謝の祈りの歌

「Te Deum」

E. ジグー/ノエルによるラプソディ 他

コンサート冒頭で、オルガン奉獻3周年の感謝の祈りを捧げます。

聖歌奏楽:伊藤 純子氏

★クワイアーフェスティバル

「礼拝を歌おう」音楽による夕の礼拝

2017年1月29日(日)14:00～18:00

講師:スコット・ショウ氏

(立教学院教会音楽ディレクター)

対象:聖公会関係大学聖歌隊、
聖公会教会聖歌隊、聖歌隊以外の
個人参加も歓迎

参加費:1000円(学生以外で指導を受ける方)

14:00～14:30

講演「礼拝における音楽の役割」

14:40～16:50

合同練習

17:00～17:40

音楽による夕の礼拝

お問い合わせ:神戸教区事務所

078(351)5469

【編集後記】

9月で招聘オルガニスト井原由紀氏のお働きが一区切りした。3年間御尽力下さったことに御礼申しあげたい。

オルガン設置当初、船舶免許も持たず小さなボートで航海に出たようなものだった、と思う。実際のオルガン維持・管理と委員会の運営は、初めての事の連続で、次々と発生するさざ波、荒波に翻弄され、問題解決は手探り状態、頭を抱える事も少なからずあった。先日9月末に無事奉獻3周年を迎える事ができたのは、共にご奉仕下さった方々、お祈り下さった方々、何より主の導きと恵みがあったからこそ、と感謝と共に感慨深く思う。

課題は尽きず、先の見通せない困難な航海であるのは今後も変わらないだろうが「私たちが求めまた思うところの一切を、はるかに超えてかなえて下さる事ができる方に・・・」という祈りを信じる。3年前と同様、これからも彼方に輝く主を見据え、み心にかなう働きができますように、と皆で共に祈りたい。

パイプオルガン会報紙事務局(神戸教区事務所)

〒650-0011

神戸市中央区下山手通5丁目11番1号

☎078-351-5469 fax(078)382-1095

